

創意工夫 ご利用者の為にできること

中村施設長の 年中夢求



「改革 真っ最中」～始まりは思いから～

少子高齢化が進み介護保険が財政的に逼迫する中、介護給付は改定の度に下げられ、東京の特養の3割以上が赤字という調査結果も出ております。更に介護士離れが進み6割以上の施設で長期的な欠員状況になっており、介護事業所の2015年の離職率は16.7%でした。その結果派遣職員採用、事業縮小（ショートや新規入所の縮小、行事の中止）、職員の超勤等サービスの低下や離職の促進を招きかねない現状です。又昨年度はこの様な財政的、人材的課題に耐えられずデイサービスや訪問介護事業所を中心に108件の介護事業所が倒産という報告もあります。

駒場苑を取り巻く状況も同じで、昨年までは職員が定着せず、派遣職員を採用する事で人件費が高騰し、経営状況は悪化しサービスも安定しませんでした。

では今年度どの様に改革に取り組んだか、それは人です。

以前は人員不足ということで「総合ケアセンター駒場苑で働きたい」と言ってくれる方は基本採用していました。しかし7つのゼロを始めとする各事業所の理念についての表面的な理解や給与、立地が動機では「思い」が薄く、辛いと直ぐ辞めてしまう職員もいました。

しかし昨年度半ばから理念は勿論ですが介護への「思い」ご利用者への「思い」仲間への「思い」を大切にして採用に取り組んだところ、職員の紹介やセミナーや実習を通して理解を深めた方等が来てくれるようになりました。又定着率も上がり駒場苑全体の離職率は今年度上半期約9%と、ここ数年の半分以下で推移しています。結果、欠員がほぼゼロ、派遣職員ゼロとなり、人件費率が正常に戻ったことで財政的にも安定しています。勿論事業の縮小などは行わず、サービスも向上しています。

7月に行った「駒場さんさん祭り」は4年目を迎え、今年度は特養とデイサービスが合同開催とした結果240名もの参加者で盛り上がる事が出来ました。これは一例ですが、この様にご利用者の笑顔が増える取り組みが可能になる改革を更に進めてまいります。

看護師ご紹介

3月に2名の看護師が定年退職し、4月からは新しい看護師1名を迎え新体制でスタートしています。ご利用者が元気で過ごせるようしっかりとサポートしている3名をご紹介します。

質問 ①看護師になったきっかけは？ ②駒場苑でお仕事していて感じることは？ ③仕事以外で最近の楽しみは？

やまぐち よしよ
山口 淑代



①幼い頃体が弱かった私は病院に行く機会が多く、優しくて頼もしい看護師の姿を見て自然に憧れを持つようになりました。

②ご利用者の笑顔や「ありがとう」の言葉が何より心のエネルギーになっています。しかし長く生活していく中で、状態の変化があるのは否めません。医療・看護の視点から細かな変化に気づいて対応していきたいです。そして苦しい事や不安な事が少なくなるように寄り添った看護をしていきたいと思っております。

③料理番組やレシピを見て真似して作って食べるのが楽しみです。



たけはら ゆみこ
竹原 由美子



①小学校3年生の時 ナイチンゲールの伝記を読んで看護師に憧れました。

②看護師は毎日看護日誌を作成しています。そこには状態に変化があった方や処置について書かれています。入力することが少ない日はご利用者が何事もなく過ごされているということなのでホッとします。そのような日が一日でも多くあるように皆様の健康管理に努めていきたいと思っています。

③娘達と好きなドラマやアニメの話で盛り上がっている時です



さくらざわ ゆうこ
櫻澤 優子



①10年以上前、駒場苑で介護職員として働いていました。その時のナースに

「あなたは看護師に向いている」と言われて。それまで看護師なんて考えたこともなかったのに次の年には看護学校に通っていました。

そのナースは3月に定年退職された横井さんです！

②駒場苑は人の雰囲気穏やかだと思います。そのため忙しい時でも気がつくくと自然と笑顔で仕事をしています。

③仕事終わりの一杯！



みちくさ

高橋相談員の ほのぼの日記

皆さん、こんにちは。今回は白寿荘での三恵さんの出張販売会についてお話したいと思います。6月26日、白寿荘にて三恵さんの出張洋服販売会が行われ駒場苑のご利用者も初めて参加しました。



三恵さんは三軒茶屋にある洋服屋さんで、以前から年に数回白寿荘で出張販売を行っています。駒場苑のご利用者から時々「洋服を買いに行きたいな」というお話があったり、職員からも「〇〇さんの新しい洋服を買いに行きたいが、どうい

うお店で買えばいいのか分からない」というような声がありました。私達職員としても「買い物に行きたい」というご利用者の声にすぐに応えたいのですが、実際はなかなか難しく、またご利用者世代が着るような洋服のお店が見つからないという中で、三恵さんの出張販売はとて

もありがたいサービスです。ぜひ今後は駒場苑のご利用者も参加できないか白寿荘の職員に話をしたところ快諾していただき、参加する運びとなりました。自分の目で見

て選ぶ楽しみ、お金を払って買い物をするという楽しみ、私達は普段当たり前に行っていることですが、ご利用者はこれらを楽しめる機会がなかなかありません。特に女性のご利用者は昔ご主人やお友達と銀ブラしたり、百貨店で買い物して楽しんだ記憶があるという方が多いと思



います。そんな楽しみをまた少しでも味わっていただけたらと思います。販売会では女性

駒場苑ではご利用者に快適に過ごして頂くためにオムツゼロを目指しています！
職員の工夫と努力で改善できた事例をご紹介します。

オムツゼロへの取組

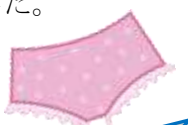
事例1 タイミングを逃さないことで解決！ (ポータブルトイレですっきりと)

ご利用者のAさんは普段から尿量が多く、お昼前に高い確率で失禁されていました。Aさんは立位がとれないのでトイレ介助は職員2名での対応が必要でしたが、ちょうどその時間は職員が一人しかいないことが多くトイレにお連れしたくても出来ない状態でした。そこで会議を開き話し合い、失禁が見られる時間帯よりちょっと前にP(ポータブル)トイレに座って頂くことにしました。今ではだいぶ失禁が減り、スッキリとした気持ちで昼食を召し上がって頂くことが出来ています。職員一同知恵を出し合い工夫してご利用者により良い生活を送って頂けるよう努力していきたいと思



事例2 信頼関係を築いてスムーズに！(リハビリパンツから布パンツへ)

ご利用者のBさんは入所以来数年間、職員とのコミュニケーションを避けるかのようになかなか心を開いて下さいませんでした。介助を受けることが億劫なようでトイレでの排泄、口腔ケア、食堂での食事、入浴にも拒否がありました。リハビリパンツを履き、更にパットをあて、パットの交換もなかなかさせてもらえない状況でした。駒場苑ではほとんどのご利用者は普通の布パンツの中にパットをあてるだけでムレもなく快適に過ごしていただいています。Bさんに関しては改善して差し上げるのが困難な状態でした。そんな中、長い間Bさんの入浴介助を担当していた女性職員が昨年退職し、男性職員のYが引き継ぐことになりました。男性職員の入浴介助は嫌がっていたBさんでしたがY職員の時は不思議と大丈夫でした。半年間はY職員が担当していましたが、次第に他の職員でも入って頂けるようになりました。そこで居室担当のS職員(男性)から「信頼関係が出来てきた今なら布パンツを試してもらえるのでは？」との意見が上がりBさんに提案してみたところ、あんなに拒否していたはずなのにすんなりと受け入れてもらえました。今では布パンツにパットで、パット交換も頻繁に行い、気持ちよく過ごしています。たまにはトイレ誘導も出来るようになりました！



駒場さんさん祭り

今年で4回目を迎えた「さんさん祭り」これまでソフト食の方が模擬店で食べられる物が少ないという問題点がありました。今年からは管理栄養士の飯岡からのアドバイスでひと工夫！かき氷に替わってソフトクリームを。焼きそばが食べられない方にはソフト食のたこ焼きを。ソフト食用のフランクフルトソーセージを手作り。チョコフォンデュで温かいチョコレートを。皆さん喜んでくれて大好評でした！

